

円滑な学会運営のために、多大なご協力をいただき、お陰様で、何とか会長としての2年間を、勤めさせていただくことができた。深く感謝する次第である。しかし将来計画や学会・合同シンポジウムの在り方等いくつかの案件について、検討を進めることができなかつたのは遺憾であ

る。それにもかかわらず、21世紀におけるわが日本放射光学会の更なる発展を確信して、会長の任期を全うできるのは、望外の喜びである。

2年間本当に有難うございました。

2000年度幹事報告

庶務幹事のこの一年

東北大学科学計測研究所 高桑 雄二

庶務幹事となって二年目となる本年は、仕事の内容が理解でき、自分の役割を自覚して活動することができました。この二年間にわたって庶務幹事の仕事をしていただき感じたことは、日本放射光学会のことがようやく理解できたことです。これまで10年近く会員であり、学会誌の編集委員や行事委員会の委員を勤めながら、日本放射光学会についてあまり意識せず、さらには距離をおいて考えていたことに気づかされました。台風の周囲では暴風雨が吹き荒れているにもかかわらず、目の中に入ると台風の存在を感じさせないものなそうですが、それとは逆に、この度学会活動の中心である幹事会に参加して初めて、日本放射光学会のこれまでの経緯や現在の状況、放射光施設と学会の関わり、高輝度光源の建設などについて改めて深く考えさせられました。放射光をキーワードとして広範囲かつ多様な分野の方々が集まって学会活動を展開していくことの重要性と必要性を認識させられるとともに、多くの課題があることも分かりました。庶務幹事として日本放射光学会を、如何にして魅力ある学会として認識してもらい、多くの方々に自発的に学会活動に参加してもらわなければならないことは、かなり商売と似ているとも感じました。店先を通り過ぎていく人を見つめる、開店早々でこれから馴染みの客を増やしたいラーメン店の店員の気持ちが良く分かりました。しかし、ラーメン店と同様に、ただ待つだけでなく声をかける必要もあるかと思い、評議員の方々に学会の入会申込書を配付し、勧誘をお願いいたしました。

この一年間を振り返ってみますと、これまで幹事会や評議員会を開催していた六本木の物性研の会議室がこの春から使用できなくなり、会議室の確保のために事務局には大変お世話になるとともに、御協力いただいた先生方に感謝申し上げます。佐藤会長の学会運営方針の一つである、学会財政の健全化と会員数の増加の実現ために、この一年間多くの試み続け、別刷りやカラー印刷の有料化、予算執行にあたっての見積もり合わせ、合同シンポの登壇者資格の明確化、合同シンポ参加費の見直し等に取り組んできました。各幹事の御努力のおかげで、例えば、会員数が2000年11月28日現在で1149名(内学生116名)へと大幅に増加することができました。この他にも本年に入り、科研費や学術会議等からの多くの推薦依頼、さらには、日本放射光学会が主催となったXAFS国際会議等があり、忙しい一年となりました。どの一つをとっても重要な課題であるため、幹事会をはじめとして多くの場で十分な議論が尽くされるように努力してまいりました。そのために、会議時間の延長や配分の不備があったかとは思いますが、その後の経過をみますと、意思疎通を図り、共通の認識をえるためには十分な議論は必要との思いを再確認いたしました。

最後に庶務幹事の二年間の任期を終わるに当たり、佐藤会長、各幹事の方々、そして事務局をはじめとして、御指導・御協力いただいた多くの方々に誌面を借りて感謝申し上げます。

行事幹事この一年

(財)高輝度光科学研究センター 大熊 春夫

自分で書いた昨年の「行事幹事この一年」を読み返してみると、「この一年は年会・合同シンポの準備をするだけで終わってしまいました。折角お願いした行事委員の方々にも一度も集まってもらえずに、一年が過ぎてしまいました。今年度は、私も多少慣れたことでもあり、2000年という区切りの年でもあるので、ぜひ、何かイベントを開催したいと思っています」と書いていたのですが、結局、年会・合同シンポ以外の企画は実現することが出来ず終わってしまいました。

自分の身の回りを見て感じるのですが、最近では研究会、シンポジウム等が非常に多く開催されており、その中で放射光学会独自の企画を考えるのが難しくなっていると思います。行事委員の方々とは、年会の時に顔合わせを行い、その後は電子メール等で意見の交換は行ったのですが、結局は年会・合同シンポの準備が始まると、「何かやらなくっちゃ」と思いながらも時間が経ち、その内に時間切れとなってしまうました。言い訳ばかりしてしまうのがないので、今後のことに少しでも役に立つ（であろうと思う）ことを書いておきます。

放射光学会独自の企画は、現状の学会の財政から独立採算性を取らなければなりません。このことは学会単独で事を進めるには結構厳しいと思います。将来、(会員が増加することにより)学会の財政が豊かになったら、有意義な学術企画にはあまり採算を考えなくて良いようになってくれればと思います。現状では、どこかの機関と協力するのが良いのではないのでしょうか。また、一部の学会では行われているのですが、学会の開催期間（あるいはその前後）に同じ場所で講習会などの企画をすることも考えられると

思います。合同シンポのプログラム編成が大変になるでしょうが、講師、講演者も選び易くなりますので。

また、合同シンポという現在の位置づけからするとやむを得ないので、行事委員会と合同シンポの組織委員会が全く別のものとなっているのも何とかならないのかと思います。このため、折角なっていた行事委員の皆さんには、合同シンポのことでは、せいぜい企画講演の提案について聞く程度になってしまいます。行事委員の中に、合同シンポ担当、企画担当などをおくことはできないのでしょうか。あるいは、ある程度同じ人が行事委員と組織委員を兼ねることも考えたらいいと思います。

いずれにしても、企画案を成功させるには時間がかかります。行事幹事の任期中の一年目に種蒔き、二年目に刈り入れとするべきであったと反省しております。

年会・合同シンポについても述べておきます。2001年の年会・合同シンポを広島大学で開催しました。今までの4施設持ち回りに新たな選択肢が加わったこととなります。広島大学が新たな持ち回り施設に加わったわけではありませんが、今後、学会・合同シンポの新しい面を切り開き、学会を発展させるためにも、同様に年会・合同シンポの開催を引き受けてくれる（「希望する」と言った方が良くかもしれません）機関があれば、評議員会、組織委員会の承認を経て積極的に開催場所を考えて行くことが必要だと思います。広島大学関係者の努力もあり、一例だけでは分かりませんが、発表申し込み件数が飛躍的に増え、新たな会員の申し込み（特に、学生会員）が多かったことを附記します。

2000年度幹事報告

編集幹事この一年

東京大学大学院・新領域創成科学研究科 雨宮 慶幸

平成12年1月から編集幹事を担当し、1年が過ぎました。平成11年には1年間、尾嶋前編集幹事のもとで副の立場で見習いを行ったお陰もあり、尾嶋前編集幹事が引いてくれたレールの上に乗って無事に1年間を終わることができました。この1年間、編集委員会では委員の出席率も高く、活発な議論を行いました。与えられた予算枠の中で如何に充実した会誌を作るか検討を行い、会誌のぜい肉はできるだけ落とし、内容の密度を高めることに心がけました。カラーページも編集委員会でも原則として制限を加えず、著者負担で積極的に採用する方針を取ることにしました。会誌の変化をどのように感じられるか、ご意見をお聞かせ下さい。

来年はさらに内容の充実を目指したいと思っています。放射光学会は多分野にまたがる学会ですので、会誌は専門性よりも、分かり易さ、読み易さ、が大切であり、「学際誌」として分野間のインターフェイスの機能を果たさなければならぬと考えています。物が「よく見える」放射光

を共通の tool にした本学会ですので、会誌も「よく見える」会誌でなければならないと思います。1)他分野の放射光研究がよく見える解説記事、2)将来の放射光研究がよく見えるトピックス記事、3)世界の放射光研究がよく見える海外情報記事、をさらに充実させて、会員の皆さんに役立つ会誌作りを目指したいと思っています。「このような会誌が手に入るのなら放射光学会に入ろうかな」と若手研究者、学生が思うような会誌にしたいと思うので、tutorial な記事の連載、若手研究者に研究紹介の場を与える場としての役割も持たせたいと思っています。約20名の編集委員で記事の提案、取捨選択を行っていますが、会員の皆さんからの情報も最大限に活用したいと思っていますので、よろしくお願ひします。また、会誌に対する感想、要望等がありましたら、お聞かせ下さい。21世紀の放射光科学の推進の為にも、微力を尽くしたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

2000年度幹事報告

渉外幹事この一年

分子科学研究所 鎌田 雅夫

2年前に佐藤会長から渉外幹事を頼まれた際に、UV-SOR 施設業務の忙しさを理由にお断りすることを一瞬考えましたが、渉外幹事の役割を聞かずに断りするのも失礼と思い、事情をお聞きするとそれほど忙しい訳でもなさそうであると分かり、結局お引き受けすることになりました。そんないい加減な気持ちからスタートした次第でしたが、開けてビックリの連続の2年間で、アッという間に任期が終了してしまいました。今更ながら時の経過の早さに比べ、出来なかったことの多さと学会活動の大変さを感じています。年頭の放射光学会で報告した活動方針は、1)他団体が開催する行事への協賛や後援、2)放射光学会と他の団体との共同主催で国際会議を開く、3)学術会議などでの放射光学会の地位向上を計る、4)学会の組織基

盤の充実を計る、5)その他渉外(障害?)事項が発生すれば、ケースバイケースで対応する、というものでした。

この内、1)については、これでもかというぐらいに多数の学会や団体から協賛や後援依頼が舞い込み、放射光ならびに放射光学会の世間での認知度が結構高いことを実感しました。これも会員各位が色々の分野で活躍されているお陰と感謝しております。2)については、第11回 XAFS 国際会議が無事に2000年7月に SPring-8 と放射光学会の共同主催で行われました。佐藤会長の挨拶を聞きに行く余裕がなく、首尾を自分の目で確認できませんでしたが、参加された方々には放射光学会の役割を認識頂いたことと思います。今後、日本で国際会議を開かれる計画をお持ちの会員の方は、放射光学会との共同主催を念頭に置いて頂け

ると幸いです。3)については、2000年5月に学術会議の会員選挙が有りました。弱小学会なので委員を推薦しても相手にされないから止めるという選択枝も有りましたが、放射光学会の地位向上のために、負け覚悟で打ってやうということになりました。結果はもう一步のところでしたので、次回に夢を繋ぐことになりました。これを通じて他学会・協会における放射光学会の認識度が高まったことを喜びたいと思います。また、佐藤会長と一緒に物研連との懇談会に行き、放射光学会の自己主張もしてきました。それやこれらで、科研費審査委員推薦や大学評価委員推薦などの依頼が来るようになり、放射光学会も世間並みになりつつあることを実感しました。4)については、合同シン

ポにおける登壇者の資格について、共催団体の代表の方々と協議を重ねました。放射光学会の会員が1000余名であり、その内学生会員が極端に少ない現状は、将来の高齢化学会になり兼ねないとの危惧をご理解頂き、従来の経緯も考慮して、ご存知のような様式で登壇者資格を明記して、学会会員増を計ることになりました。5)については、特に渉外(障害?)となる事項が発生しなかった一方で、放射光学会の電子化や合同シンポの将来検討などが宿題となりました。これらは次年度の渉外幹事に引き継ぐとともに、皆さんの英知を得るべき懸案事項かと存じますので、宜しくご協力をお願いします。

2000年度幹事報告

会計幹事この一年

高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所 山本 樹

会計幹事四年目の報告をいたします。

上坪・佐藤二代の会長の下で学会財政基盤の整備に取り組んで参りました。成果については、放射光学会誌本号および過去数年の第1号にある各年度決算報告および資産負債明細から読みとれることと思いますが、学会の財政状態は確実に上向いて来ております。しかし、安心するとすぐに「躓く」のが財政問題の本質のようですから、2000年度はそうならないための「杖」をもうけるべく努力しました。このための非常に良いお手本は年会・合同シンポの運営です。1997年末の学会会計一本化以来年会・合同シンポ開催では赤字を出さないということを至上命令としてきました。そこでは、開催実行予算案の綿密な検討を行い、正確な見積を確認することで予算案に則った執行を行うことを心がけました(これは年会・合同シンポ開催現地の実行委員会の尽力によっています)。

一般会計においても同様の努力をした結果、会計幹事が年度途中の予算執行状況をきめ細かく把握することで年度当初の予算案に従った(赤字を出さない)予算執行が可能になったと思います。2000年度の決算では、これまでともすれば膨張しがちであった会誌印刷費を年度予算に従って執行することができました。これは各号出版の度に編集

幹事と会計幹事の間で慎重な打ち合わせを行って実現したことです。上記の方式については、評議員会で説明し事務局に記録を残す形で試みて参りましたので、今後も本学会に根付いて行くものと期待(確信)しております。

もう一つ特記すべきことは、1997年のSRI'97主催に引き続いて関係者の努力が実り、今年度の文部省科学研究費補助金の交付を得て第11回X線吸収微細構造国際会議(XAFS'11, 於赤穂市)を主催(日本原子力研究所・理化学研究所・(財)高輝度光科学研究センターと共同主催)できたことです。財政規模の非常に大きな国際会議運営の援助を科学研究費補助金の形で得られるということは、放射光学会の重要性が対外的にも高く評価されたことを示しており大変喜ばしいことと思います。このような活動を通して学会の学術的実力がますます充実して行くものと考えます。

この4年間、通常の研究所の生活では得られない貴重な体験を色々とさせていただきました。これで前期の幹事達にやっとなら追いついて、今期の幹事達とともに卒業させていただきそうです。会員および事務局の皆様どうも有り難うございました。